

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和5年3月15日

計画の名称	相模川・酒匂川流域における下水道施設の整備(第Ⅱ期)		
計画の期間	平成28年度	～	令和2年度 (5年間)
計画の目標	交付対象	神奈川県	

下水道施設の整備を行い、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造する。

計画の成果目標(定量的指標)

- ①相模川流域左岸処理場の水処理能力不足分を右岸処理場で受入れるためのポンプ能力(56m3/分)を増加させる。
- ②酒匂川流域左岸処理場の上部利用施設の基盤整備面積を1.3haから2.0haへ増加させる。

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

備考

当初現況値 (H28当初) 中間目標値 (H30末) 最終目標値 (R2末)

- ①相模川流域連絡幹線ポンプ揚水能力
整備済み揚水能力(m3/分) / 計画揚水能力(m3/分)
- ②酒匂川流域下水道左岸処理場上部利用施設の基盤整備面積
整備済み面積(ha) / 計画面積(ha)

0%	0%	100%
48%	74%	74%

全体事業費(百万円)	合計(A+B+C)	536	A	425	B	111	C	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%
------------	-----------	-----	---	-----	---	-----	---	---	---------------------------	------

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
	令和4年度
計画策定主体である神奈川県で事後評価を実施した。	公表の方法
	県のホームページに掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業																	
A1 下水道事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	事業及び施設種別	省略工程	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
											H28	H29	H30	R1	R2		
相模川流域下水道																	
A1-1-1	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	相模川流域下水道(処理場・ポンプ場他)	効率的な施設計画検討業務	茅ヶ崎市・平塚市						6	
A1-1-2	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	相模川流域下水道(右岸処理場)	連絡幹線ポンプ設備整備	平塚市						1	
酒匂川流域下水道																	
A1-4-1	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	酒匂川流域下水道(処理場・ポンプ場他)	効率的な施設計画検討業務	小田原市						16	
A1-4-2	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	酒匂川流域下水道(左岸処理場)	場内整備	小田原市						92	
A1-4-31	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	酒匂川流域下水道(幹線管渠)	箱根小田原幹線整備	小田原市						310	
											合計	425					

B 関連社会資本整備事業																	
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H28	H29	H30	R1	R2			
相模川流域下水道																	
A1-1-1	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	相模川流域下水道 (処理場・ポンプ場他)	効率的な施設計画検討業務	茅ヶ崎市・平塚市						0	
酒匂川流域下水道																	
A1-4-1	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	酒匂川流域下水道 (処理場・ポンプ場他)	効率的な施設計画検討業務	小田原市						7	
A1-4-31	下水道	一般	神奈川県	直接	神奈川県	処理場	新設	酒匂川流域下水道 (幹線管渠)	箱根小田原幹線整備	小田原市						104	
											合計		111				

番号 一体的に実施することにより期待される効果

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H28	H29	H30	R1	R2		
											合計		0			

番号 一体的に実施することにより期待される効果

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況		酒匂川流域左岸処理場の上部利用施設の基盤整備面積を1.3haから2.0haへ増加させたことにより、地域住民が活用できる空間が増え、快適な暮らしの実現と下水道事業への理解に貢献した。										
II 定量的指標の達成状況	指標① (①相模川流域連絡幹線ポンプ揚水能力)	最終目標値	100 %	目標値と実績値に差が出た要因	地元調整や関係機関協議等に時間を要し、事業着手に遅れが生じたことから目標を達成できなかった。							
		最終実績値	0 %									
	指標② (酒匂川流域下水道左岸処理場上部利用施設の基盤整備面積)	最終目標値	74 %	目標値と実績値に差が出た要因		目標どおり達成している。当初目標としていた整備面積約0.7haのエリアは、実績値で0.77haであったため、目標値を上回った。						
		最終実績値	78 %									
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)												

3. 特記事項 (今後の方針等)

引き続き、次期社会資本総合整備計画 (第III期) において下水道施設の整備を実施することで、安全・安心、快適な暮らしを実現し、良好な環境を創造することを目指す。